

1 病院の概要

本院は、栃木県境に聳える名峰「荒海山（太郎岳）」を源流とし、町東部のほぼ中央を北流する阿賀川とスキーリゾートで有名な台鞍山から東流する檜沢川とが合流する南会津町永田に位置し、主に南会津地域を診療圏とする病院である。

病院の東側には、地域の方々の憩いの場所となっている桜の堤公園や河川敷運動公園があり、また、北側の檜沢川堤防に桜並木も一望出来るなど自然環境に恵まれたところに立地している。

もともとは、昭和 18 年に日本医療団が地域医療の確保を目的に旧田島町上町に民間施設を借り受け、日本医療団田島病院として発足したのが始まりで、その後昭和 24 年に当該医療団が解散するとともに福島県に移管された。

以降、南会津地方の中核病院として、増床や旧田島町寺前への新築移転、旧田島町天道沢への再移転等変遷を重ねながら地域の期待に応えてきた。

しかし、昭和 45 年 11 月に竣工した建物の老朽化と狭隘化は、益々増大する医療需要に困難をきわめ増築等が切望されていた。

一方、福島県は昭和 60 年の医療法の改正により義務づけられた医療圏域の設定について、「新福島県保健医療計画」のなかで、地理的条件、交通条件、保健医療の需給状況を勘案して、南会津地域を一つの医療圏域とする七圏域により県民の医療供給体制の充実を図ることとした。

また、上記計画とあいまって平成元年 6 月に策定された「第二次福島県立病院事業経営長期計画」では、当病院の県立病院として担うべき役割と今後の方向が示され、当圏域で二次医療まで完結できるように、圏域内で不足する診療科の充実と施設の整備充実等がその具体的方策として掲げられた。

このような情勢を受けて、平成 2 年に当病院の新築移転が決定され、延べ床面積が旧病院の約 3 倍の 8,998 m²の新病院が旧田島町（現 南会津町）永田地内に平成 6 年 12 月に完成し、平成 7 年 4 月 14 日から従来の内科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科に新たに人工透析、小児科、産婦人科を加え一般病床 150 床として、新たな飛躍をしたところである。

その後、整形外科常勤医が不在となったことにより平成 18 年度から 3 病棟を閉鎖し、さらに、赤字化が問題視された公立病院改革の一環で平成 21 年 3 月に許可病床を 100 床に変更するなど、医師不足の影響を受けながらも、皮膚科の開設など診療科目の充実に努めているところである。